R6.9.30(月)実施

母性方法論2　試験問題（30点）　担当　川越

1．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) ザイツ法(seitz 法)が陽性の場合は児頭骨盤不均衡を疑う。

2) 子宮口 3cm 開大で1分毎に子宮収縮を認めたので過強陣痛と判断した。

3) 出生体重が ~~2,500g~~ 4000g 以上の児を巨大児とよび肩甲周囲が大きくなる。

4) 微弱陣痛で胎児の状態が良好であれば陣痛促進剤（オキシトシン）の点滴を行う。

2．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 巨大児が生まれた場合には、母体の妊娠糖尿病を疑う。

2) 肩甲難産の際にはマックロバーツ体位をとりながら子宮底部を圧迫する。恥骨結合上

3) 出生体重 2,500g 未満の新生児を低出生体重児という。

4) 低出生体重児は胎位異常を来しやすい。 - 胎児機能不全を起こしやすい
- 胎位異常 ⇒ 破水後に，臍帯脱出を考慮する．

3．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 骨盤位で破水した場合には臍帯下垂に注意が必要である。臍帯圧迫・臍帯脱出も，

2) 第1回旋の異常を反屈位とよぶ。

3) 大泉門が先進していない場合には反屈位を疑う。

4) 骨盤位は妊娠週数の進行とともにその頻度は減少する。

4．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 内診で反屈位を診断することは困難である。⇒超音波断層法をもちう

2) 胎児は骨盤を小斜径周囲面で通過する。

3) 第2回旋で先進する後頭が母体の前方に向かうのを後方後頭位という。前方
↳ 母体の後方 ⇒ 遷延分娩

4) 胎向は分娩経過には影響しない。

5．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 前置胎盤の分娩様式は帝王切開術が選択される。

2) 前置胎盤では子宮の収縮などによって有痛性の出血を起こす。無痛性

3) 前置胎盤では癒着胎盤の危険性が上昇する。

4) 常位胎盤早期剝離では有痛性の子宮収縮を認め進行すると子宮は硬く板状硬となる。
⇒ 胎盤後血腫を形成

No.　　氏名

6．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 常位胎盤早期剝離の時、子宮の漿膜面に認めるいっ血斑をクーヴレール徴候とよぶ。

2) 常位胎盤早期剝離では胎盤と子宮壁との間に胎盤後血腫を形成する。

3) 胎児が下部消化管閉鎖の場合は羊水過多を起こす。

4) 羊水量の評価には超音波断層法が用いられる。

7．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 子宮破裂を起こした場合、児の予後は不良である。

2) 分娩時の頸管裂傷は左右の側壁に起きることが多い。

3) 頸管の3時、9時方向には子宮動脈が走っており強出血を来すことがある。

4) 癒着胎盤は羊膜が一部欠損し絨毛が子宮筋層内に侵入し胎盤が剥離困難になる。

8．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 胎盤娩出直後に多量の出血と腹部の激痛を認めた場合には子宮内反症を疑う。

2) 羊水塞栓症の母体の死亡率は40-80%に達する。

3) 多量の出血による産科DICではフィブリノゲンの増加を認める。

4) 陣痛誘発にはオキシトシンの持続点滴を行い少量から開始する。

9．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 分娩開始以前の破水を前期破水とよぶ。

2) 破水時には羊水の流出により腟内pHが酸性になる。

3) 妊娠34週以降の前期破水では分娩誘発を考慮する。

4) 原因不明の羊水過少が持続する場合には前期破水を疑う。

10．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)

1) 妊娠の時期に関係なく羊水量が800mLをこえるものを羊水過多という。

2) 適時破水は子宮口全開大時に起こる。

3) 超音波断層法による羊水量の評価は測定誤差があり異常と判断した場合、繰り返し評価を行う。

4) 早産では羊水が胎便で混濁することが多い。

裏面あり

１１．　次の選択肢で誤っているものを１つ選びなさい。(2 点)

1)　会陰裂傷は直腸まで及ぶ場合があり直腸腟瘻が形成される原因となる。

2)　会陰裂傷を予防するために会陰切開が行われる。

3)　分娩時異常出血は分娩中から分娩後 2 時間までの出血が 1,000mL 以上と定義される。

4)　子宮内充填法としては子宮内バルーン充填法が最近頻用されている。

１２．　次の選択肢で誤っているものを１つ選びなさい。(2 点)

1)　羊水塞栓症による母体の死亡率は約 5%である。

2)　弛緩出血を認めた場合にはまずは双手圧迫を行い止血を試みる。

3)　分娩中や分娩直後に羊水や胎児成分が母体血中に流入し産科ショックを来す疾患を羊水塞栓症という。

4)　羊水塞栓症の特徴としては治療抵抗性の子宮収縮不全を認める。

１３．　次の選択肢で誤っているものを１つ選びなさい。(2 点)

1)　胎児機能不全(NRFS)は主に胎児心拍数モニタリング（胎児心拍数陣痛図）を用い評価する。

2)　胎児心拍数モニタリングで一過性頻脈を認めた場合、胎児の状態は良好である。

3)　胎児の状態が悪化した場合、胎動が減少した後に呼吸様運動が減少する。

4)　羊水量の減少は主に胎内環境の悪化を意味し妊娠週数次第で早期の妊娠終結を考慮する。

１４．　次の選択肢で誤っているものを１つ選びなさい。(2 点)

1)　子宮復古不全とは子宮収縮不全のため産褥の子宮復古が遅れた状態を指す。

2)　血液成分を主とした悪露が続く場合には子宮復古不全を疑う。

3)　器質性子宮復古不全の原因は胎盤遺残であることが多い。

4)　マタニティブルーズは産後 7 日以降に発生する。

１５．　次の選択肢で誤っているものを１つ選びなさい。(2 点)

1)　マタニティブルーズは経産婦より初産婦に多い。

2)　マタニティブルーズを認めた場合、抗うつ病が必要になることが多い。

3)　産後うつ病は産褥 1 か月以内に急激に発生し強い抑うつ感がある。

4)　産後うつ病は自殺の原因となることもあり慎重な対応を要する。

母性看護学方法論２　（川越先生）

令和６年９月 30 日（月）実施

Ｎｏ．　　氏名

1 3	2 ~~4~~	3 3	4 3	5 2
6 3	7 4	8 3	9 2	10 4
11 3	12 1	13 3	14 4	15 2

各２点

28

点／30 点